

地域とともに歩む、新しい安心の拠点づくり

（仮称）雪ノ下消防出張所新築工事 基本設計完了のご報告

街並みへの調和と強固な消防機能の両立を目指して

※掲載のパース図は基本設計段階のイメージであり、詳細設計等により変更となる場合があります

地域の安心・安全を守るために、 大切にする「3つの柱」



周辺環境・景観への配慮

- ・圧迫感の軽減
- ・プライバシー保護、騒音対策の徹底
- ・高さを抑えたデザインと木調ルーバーの採用



災害に負けない堅牢な拠点

- ・大地震後も機能し続ける高い耐震安全性
- ・一刻を争う出動に応える確実な初動体制の構築



隊員の心身を守る環境

24時間365日稼働する隊員が常に最高のパフォーマンスを発揮できる、質の高い職場環境

「皆さまと共に歩む、新しい庁舎の設計を進めていきます」

景観への配慮

住民説明会資料
令和8年（2026年）9月26日

4階セットバックによる圧迫感低減

通りから高層部を後退させ、日影と視覚的負担を緩和。

金沢街道に調和したファサード

軒の連続性により、街並みに調和した景観を形成。

温もりのある木調ルーバー

設備機器を目隠ししつつ、街並みに木の風合いを付加。

金沢街道側からの外観パース（イメージ）

歴史ある雪ノ下に調和する落ち着いた佇まい

住民説明会資料
令和8年（2026年）9月26日



建築概要とフロア構成：機能的で安心な階層設計

4F

多目的ゾーン（講習・研修）

山並みを見渡す開放的な多目的会議室。救急・消防講習の拠点。

約150 m²

3F

生活ゾーン（静穏な休息環境）

個室型仮眠室・女性専用区画を完備。

約440 m²

2F

執務ゾーン（指令・出動直結）

車庫を見下ろすフリーアドレス執務室。出動準備室へ繋がる専用直通階段。

約180 m²

1F

出動準備・車庫・訓練ゾーン（車庫内での訓練空間）

消防・救急車両の並列配備。

約440 m²

B1

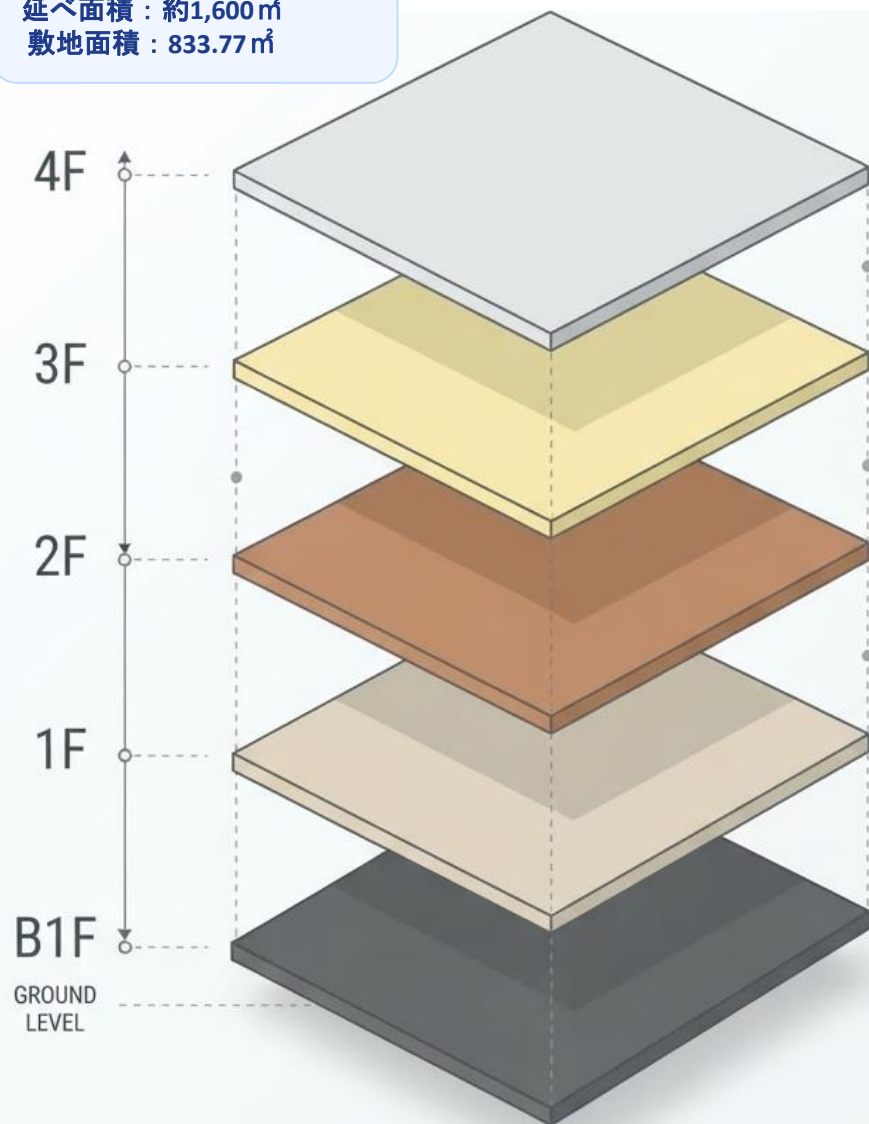
訓練・防災ゾーン（遮音性の高い空間）

音を外部へ漏らさない地下トレーニング室。

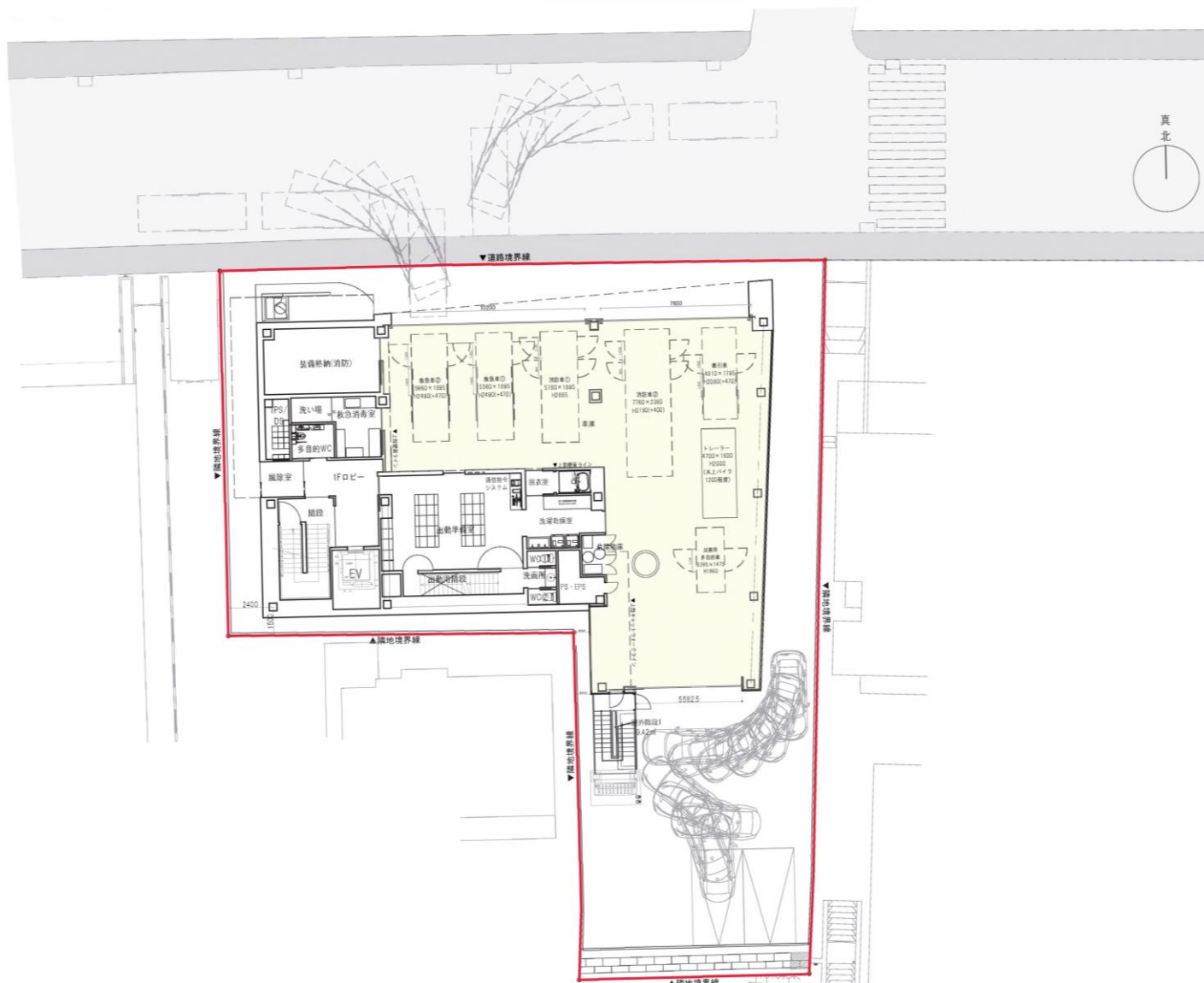
約250 m²

構造：地下SRC造・地上S造
延べ面積：約1,600 m²
敷地面積：833.77 m²

住民説明会資料
令和8年（2026年）9月26日



迅速な出動を可能にする配置計画



緊急車両の並列配置

消防車・救急車を並列配置し、迅速な出動体制を整備

歩行者視線への配慮

歩道から距離を保つことで、視認性を確保。

明瞭な受付アプローチ

案内サインと住民窓口をわかりやすく配置。

「音」への配慮

住民説明会資料
令和8年（2026年）9月26日



最新型・低騒音シャッター

深夜や早朝の出動時でも開閉音を低減。

遮音性の高いトレーニング室（地下）

音の発生する体力練成等は地下空間へ集約。

訓練時の運用ルール徹底

敷地の奥へ車両を移動し、車庫内での訓練を実施。
シャッターを閉鎖で音漏れを抑制。

夜間の安心感

住民説明会資料
令和8年（2026年）9月26日

3階 生活ゾーンの光漏れ抑制

ルーバー及びカーテン等の運用により、近隣への光漏れを抑制。

車庫 透過シャッターの穏やかな灯り

夜の通りを優しく照らし、消防庁舎があることの安心感とともに、「街のシンボル」として機能。

夜間シミュレーション（3階仮眠室消灯時）

市民とつながる「4階 多目的ゾーン」



眺望豊かな開放的空間

雪ノ下の山並みと街並みを見渡せる明るい空間。

実践的な救急・消防の講習の場

救急講習や住民防災研修を定期的開催。

安全文化を地域へ

地域の安全文化を育む場へ。
同一階に多目的トイレを配置。

今後のスケジュールと工事中の配慮

令和8年度～

埋蔵文化財調査

令和8～9年度

実施設計

令和9～11年度

建設工事

令和12年（2030年）4月（予定）

新庁舎 運用開始



工事期間中の住民生活への配慮

工事車両の通行ルート・運行時間帯を厳格に管理し、近隣通学路等の安全を確保します。
低騒音・低振動重機の導入により静穏な住環境に配慮します。

地域に愛され、ともに歩む消防庁舎へ

雪ノ下の未来の安心を、 皆様とともに築いてまいります

本日はご清聴いただき誠にありがとうございました。
計画に関するご質問をお聞かせください